

ラファティ新短篇集
『翼の贈りもの』（仮題）
発売告知記念企画

収録作品紹介

+

「ラファティの次に読みたい 100 冊を考えよう」資料

「ラファティのエッセンス、スラップスティックなほら話と遠大な SF 的ビジョン、哲学・宗教的思考とが奇跡のように結合した作品群。歴史への関心、ノスタルジックな側面、現代社会への洞察も散りばめられている。物語作者ラファティにとって物語とは何かを考える重要な材料ともなる」

井上央（いのうえひろし） 大阪キリスト教短期大学教授

「子供たちの午後」に続く井上央編訳の日本オリジナル短篇集第二弾！
全編新訳の 11 作収録で青心社より来春刊行に向けて翻訳鋭意進行中！

『翼の贈りもの』（仮題） 収録予定作：() は初出

最後の天文学者 The Last Astronomer (Four Stories, '83)

だれかがくれた翼の贈りもの Bequest of Wings (Rooms of Paradise, '78)

なつかしきゴールデンゲイト Golden Gate (Golden Gate and Other Stories, '82)

雨降る日のハリカルナッソス Rainy Day in Halicarnasses (At the Sleepy Sailor, '79)

片目のマネシツグミ One-eyed Mocking Bird (Golden Gate and Other Stories, '82)

ケイシの機械 The Casey Machine (Episodes of the Argo, '90)

聖女マルタ Holy Woman (Dotty, Limited Ed. '90)

優雅な日々と宮殿 Pleasures and Palaces (Snake in His Bosom and Other Stories, '83)

ジョン・ソルト John Salt (Slippery and Other Stories, '85)

深色ガラスの物語——非公式ステンドグラス窓の歴史

In Deepest Glass: An Informal History of Stained Glass Windows (Berkley Showcase 4, '81)

ユニークで斬新な発明の数々 Inventions Bright and New (IASFM, '86/5)

さて、収録作について少しご紹介を。まっさらな気持ちで読みたい方は、以下は読まないでくださいね。まあ、記憶力の減退と英語読解力の不足のおかげでたいしたことは書いてませんが(笑)。(文責:らっぱ亭)

【最後の天文学者】 Drumm Books から何冊か出たチャップブック・シリーズの一冊 "Four stories" に収録。(余談ですが、細かなタイプライターの文字がびっしりのこのシリーズは読むのに一苦労でした) ちなみに、星新一の「進化した猿たち」によれば、当時アメリカの街角には有料の体重計があって、体重とその日の運勢を告げてくれたのだとか。さすがに最近は見かけないような気がするなあ。その朝、チャールズは火星の自動体重計に乗って、その日限りの命だと宣告された。彼ら天文学者は、従来の広大な宇宙の概念が幻想だったと判ったからには、滅びねばならない運命なのだ…。

【だれかがくれた翼の贈りもの】「未来が個人におよぼすインパクト」をテーマにオールディス、イアン・ワトスン、ジーン・ウルフラが書き下ろしたアンソロジー "Rooms of Paradise" に収録。表題作に選ばれるだけあって、残酷な美しさとせつなさが胸に染みるような、これまではあまり紹介されていなかったラファティの一面が味わえる佳品。人類の新たな変異の兆しは突然にやってきた。若者は十五歳になると翼が生え、手指が異様に長く伸びてしまう。あと半世紀の内には更なる変異の完成とともに自在に飛びまわる鳥人となることだろうが、過渡期には悲劇的な淘汰がつきものだった…。

【なつかしきゴールデンゲイト】 Corroboree Press から 1000 部限定で発行された短篇集の表題作。短編集未収録作品ばかりを収録し、本作と「片目のマネシツグミ」を含む 6 篇はこれが初出。その他もヒューゴー受賞作の "素顔のユリーマ" をはじめ、当時入手困難だった作品が収録された嬉しい選定だった。本作は The Year's Best Science Fiction, First Annual Collection, '84 にも再録された。ゴールデンゲイト・バーは寸劇と唄と可愛い女の子が売り物で、いつも真夜中まで超満員に賑わっていた。寸劇で悪漢を演じるブラッキィが『本物の悪漢』だと見抜いたバーナビー青年だったが…。

[雨降る日のハリカルナッソス] ニューオーリンズにて開催された Deep South Con ('79) にてラファティは「つぎの岩につづく」でフェニックス賞を受賞。あわせて記念刊行されたブックレット "At the Sleepy Sailor" が初出。ラファティ・キャラが愉しげに集う酒場の表紙絵は Dany Frolich の手になるもの (@RappaTei の Twitter 背景画です)。本作は後にアンソロジー "Betcha Can't Read Just One" およびチャップブック "The Back Door of History" に再録された。ソクラテスが毒杯を呷ったのは、プラトンによる創作だって。例によって胡散臭い歴史家アーパッド・アルティノフ著すところの "歴史の裏口" を前説として、陰鬱な雨降る都ハリカルナッソス（現トルコのボドルム）を舞台とする物語。突然の嵐で寄港したスリックとブーマーは陽気なでぶのロッキー・ソッキーの案内で、雨の日限定の奇妙な観光ツアーに誘われて…。

[片目のマネシツグミ] 本作も "Golden Gate and Other Stories" 初出。京大 S F 研の「中間子天堂編」で読まれた方もおいでかな。ラファティお得意の、聖書と知られざる歴史ネタをからめたマッド・サイエンティストものだ。後期ラファティならではの難解さもあるが、全体として楽しい佳品となっている。ハミルトン「フェッセンデンの宇宙」からイーガン「クリスタルの夜」に至る、ミクロコスモスものの系譜にも連なる一品。偉大な科学者トビアス、今回の実験は分子レベルで活性化されたゼリー状物質を弾丸にちよっぴり詰め込んで、発砲するというもの。このゼリーはいわば知性をもった分子の小世界であり、きっかり二秒半後には四キロ離れた断崖に着弾して滅びてしまう運命にある。トビアスの狙いは、この二秒半（人間にとっては八千年ほどに相当）の内に彼ら自身で弾丸の軌道を逸らし、破滅の運命を免れるような技術の進歩と発明を促すことだった。そうすれば、人類が進歩した彼らから素晴らしいテクノロジーを引き出せるって仕掛けだったが…。

[ケイシイの機械] アルゴ神話ものを 3 篇収録したチャップブック "Episodes of the Argo" に収録。70 部のサイン付き限定版には「ケイシイの機械」補遺がついているのだが、今回の訳には反映されるのでしょうか。ちなみに私は苦勞して限定版を入手したのだが、アルゴ神話シリーズは後でまとめて読もうと思いつつ、実は未読。という訳で内容紹介はありません（笑）

[聖女マルタ] これはきわめて入手困難な一作。初出は United Mythologies Press より刊行された "Doty" だが、70 部サイン付き限定版にのみ収録。その後、セミプロジン "Strange Plasma" に再録されたが、これも入手は難しい。人気の「苦虫ジョン」シリーズ作で、出来もいいのもったいないなあ。これが読めるだけでも、日本のラファティ読者は幸せですぞ。苦虫ジョンは世界中をまわってきた船乗りで、なんかちよっと信じられない話の語り手だ。さて今回のお話では、苦虫ジョンはシャアの港で億万長者と間違われ誘拐された。一昼夜監禁されたジョンは、見張り番のマルタからその数奇な運命を語られる…。

[優雅な日々と宮殿] Drumm のチャップブック・シリーズ "Snake in His Bosom and Other Stories" に収録。最後に明かされる意外なスイングの出自と故郷の描写、世界中の怪しげなディナーを前にスイングと特殊天才の友人たちの哲学的問答のような会話など、中後期のラファティらしさに溢れた作品である。グリッグルス・スイングは完全な人間だ。遺伝子操作に長けたスイングは特殊な天才たちを創り出し、世界はより洗練された社会へと進歩を遂げたのだったが、果たしてかれの正体は？

[ジョン・ソルト] Drumm のチャップブック・シリーズ "Slippery and Other Stories" に収録。ちなみに、"Four

Stories"収録の"Faith Sufficient"は後日談となる。「ジョン・ソルト」のネタバレがあるので、先に読まないようご注意ください(←そんなやつはいないよw) ジョシュア・ハーラスは奇跡を起こす伝道師で、不具者は快癒し死者をも蘇らせる。ところが、その正体はジョン・ソルトといういんちき大道商人でメーキャップ師のアレックスと組んで様々なトリックを駆使して奇跡を演出していたのだ。さて、今回の説教も仕込みはばっちりのはずだったが…。

[深色ガラスの物語—非公式ステンドグラス窓の歴史] 絢爛たるステンド・グラスの歴史はネアンデルタール人の時代まで遡るって知ってた？ 当時は火山活動が盛んで大気中に色彩を帯びた粒子が漂い、氷河期の冷気によってガラスにおりた霜に"世界の精霊"が意匠を張りつけて精妙なステンド・グラスを創っていったという。そして、今は22世紀。世界にまたも氷河期が訪れ、活潑化した火山活動はあらゆるガラスに豊かな色絵を描いていく。人びとは朝になると鮮やかな自らの夢の光景を我が家の窓ガラスに認めた。日々描かれる莫大なステンド・グラスの中には、真のマスターピースたるとびきりの作品が混じって、その数世界で五万枚。それら総てをつなぎ合わせ解析すれば、世界の姿が解るんだというのだが…。ステンド・グラスに封じ込められた世界の意匠って発想は"大河の千の岸边"をも思い起こすが、ボブ・ショウのスロー・グラス、ディレーニーのドリフトグラスと並ぶ世界三大ガラス・テーマSFに選ばれているのは有名な話(嘘)。

[ユニークで斬新な発明の数々] アシモフ誌に掲載された短篇集・アンソロジー未収録作。いつとは知れぬ時空と次元での話。ブローケン・アローからタルサに向かう特急列車の中で、時間と空間の無限の円環構造を超越した"ユニークで斬新な発明"を試みるグループがあった。思考の力をもって世界を次々と改変していくのだったが…。

なお、本記事は「とりあえず、ラファティ」のらっば亭が「ラファティ新短篇集勝手に応援企画」として個人で作成しました。貴重な新刊情報をいただいた井上央氏および青心社に感謝します。

付録：「ラファティの次に読む 100 冊を考えよう」

次ページより始まるリストは、2010 年 10 月 9 日に京都 S F フェスティバル内の座談会企画「ラファティの次に読む 100 冊を考えよう」のために提案された、推薦図書の一覧である。

座談会の概要は以下のとおり。

企画案内

日本において根強いファン層を持つ R・A・ラファティ。

ラファティ好きならあわせて読みたい奇想文学や SF について

睡魔が来るまでまったりおしゃべりしましょう。

来春予定のラファティ新短編集の最新情報なども少し。

出演者

らっぱ亭（「とりあえず、ラファティ」管理人）、

林哲矢（「不純粋科学研究所」管理人）他。

企画提供者

魚（ラファティファン）

上記出演者に加えて**柳下毅一郎**、**牧真司**、**かたり**、**加藤逸人**の四氏に協力者として提案いただき、のべ 106 冊が寄せられた。（以上敬称略）

■利用方法■

二人以上の推薦者が重複してリストアップした作家はラファティファン必読であり、一人だけが推薦した作家はラファティファンの読書の幅を広げるもの、と考えていただきたい。いずれにせよ、あなたが読んだことのない本なら、まずはお試しあれ。

■らっば亭（「とりあえず、ラファティ」管理人）

ベン・C・クロウ編『アメリカの奇妙な話 <1> 巨人ポール・バニヤン』（西崎憲訳、ちくま文庫）【**アメリカのトールテール**】

星新一『進化した猿たち』（新潮文庫）【**アメリカのキテレツな発想**】

Dreams That Burn in the Night by Craig Strete 【**ネイティブ・アメリカン・インディアンの世界観とSFの融合**】

マーガレット・セントクレア『どこからなりとも月にひとつの卵』（野口幸夫訳、サンリオSF文庫）
【**奇妙な残酷さとねじくれたユーモア**】

アヴラム・デイヴィッドスン『どんがらがん』（殊能将之編、河出書房新社《奇想コレクション》）【**奇想短篇**】

フリッツ・ライバー『跳躍者の時空』（中村融編、河出書房新社《奇想コレクション》）【**奇想短篇**】

テリー・ビッシン『平ら山を越えて』（中村融編、河出書房新社《奇想コレクション》）【**奇想短篇**】

フラン・オブライエン『第三の警官』（大沢正佳訳、筑摩書房）【**奇想と風刺**】

ルーチョ・チェーヴァ『テスケレ』（千種堅訳、河出書房新社）【**奇想と風刺**】

円城塔『Self-Reference ENGINE』（ハヤカワ文庫JA）【**奇想・煙に巻かれる話**】

Thackery T. Lambshead Pocket Guide to Eccentric & Discredited Diseases by Mark Roberts & Jeff VanderMeer 【**奇想キテレツ病気図鑑**】

あろひろし『とっても少年探検隊』（集英社：ジャンプスーパーコミックス）【**奇想キテレツてんこもり**】

吾妻ひでお『スクラップ学園』（秋田書店：プレイコミックス）【**おかしな日常**】

岸本佐知子『気になる部分』（白水Uブックス）【**おかしな日常**】

つばな『第七女子会彷徨』（徳間書店）【**おかしな日常**】

坂田靖子『マーガレットとご主人の底抜け珍道中』（ハヤカワ文庫JA）【**おかしな旅行**】

ストルガツキイ兄弟『月曜日は土曜日に始まる』（深見弾訳、群像社）【**おかしな研究所**】【**奇想と風刺**】

山名沢湖『いちご実験室』（講談社コミックスデラックス）【**おかしなハカセ**】

Adventures in Unhistory by Avram Davidson 【**饒舌なペダンティズム**】

唐沢商会『怪物新書』（光文社）【**怪しげなペダンティズム**】

■林哲矢（会社員）

ロバート・アントン・ウィルソン&ロバート・シェイ《イルミナティ》三部作（小川隆訳、集英社文庫）【**オカルト・神話**】

井上一夫『アメリカほら話』（ちくま文庫）【**土俗**】

ニール・ゲイマン『アナンシの血脈』（金原瑞人、角川文庫）【**オカルト・神話**】【**土俗**】

アヴラム・デイヴィッドスン『どんがらがん』（殊能将之編、河出書房新社《奇想コレクション》）【**奇想**】【**土俗**】

ジョン・スラデック『蒸気駆動の少年』（柳下毅一郎編、河出書房新社《奇想コレクション》）【**奇想**】

とり・みき『遠くへいきたい』（河出書房新社）【**奇想**】

諸星大二郎『菜と紙魚子と夜の魚』（眠れぬ夜の奇妙な話コミックス）【**奇想**】

深堀骨『アマチャ・ズルチャ 柴刈天神前風土記』(ハヤカワSFシリーズ・Jコレクション) 【奇想】
北野勇作『どろんころんど』(福音館書店《ボクラノSFシリーズ》) 【奇想】
別役実『虫づくし』(ハヤカワ文庫NF) 【奇想】
五十嵐大介『SARU』(IKKI COMIX) 【奇想II土俗】
スカーレット・トマス『Y氏の終わり』(田中一江訳、ハヤカワ・ノヴェルズ) 【奇想】
エンリケ・アンデルソン＝インベル『魔法の書』(鼓直ほか訳、国書刊行会《文学の冒険》) 【奇想】
エリック・マコーマック『パラダイス・モーテル』(増田まもる訳、東京創元社《海外文学セレクション》) 【奇想】
トンマーズ・ランドルフィ『カフカの父親』(米川良夫ほか訳、国書刊行会《文学の冒険》) 【奇想】
ヴィクトル・ペレーヴィン『恐怖の兜』(中村唯史訳、角川書店《新・世界の神話》) 【奇想】
マイクル・カandel『キャプテン・ジャック・ゾディアック』(大森望訳、ハヤカワ文庫SF) 【ドタバタ】
イアン・ワトスン『スロー・バード』(大森望ほか訳、ハヤカワ文庫SF) 【ドタバタ】
梶尾真治『宇宙船<仰天>号の冒険』(ハヤカワ文庫JA) 【ドタバタ】
ロバート・ランキン『ブライトノミコン リズラのはちゃめちやな一年間』(坏香織訳、創元推理文庫) 【ドタバタ】

■牧真司 (SF研究家)

ヘンリー・カッター『ボロゴーズはミムジイ』(小尾芙佐ほか訳、早川書房《ハヤカワ・SF・シリーズ》) 【奇想SF】
フリッツ・ライバー『バケツ一杯の空気』(山下諭一・深町真理子ほか訳、サンリオSF文庫) 【奇想SF】
テリー・ビッシン『平ら山を越えて』(中村融編訳、河出書房新社《奇想コレクション》) 【奇想SF】
デイヴィッド・イーレイ『ヨットクラブ』(白須清美訳、晶文社ミステリ) 【飛びきりの異色短篇】
イタロ・カルヴィーノ『レ・コスミコミケ』(米川良夫訳、ハヤカワepi文庫) 【飛びきりの異色短篇】
バリー・ユアグロー『たちの悪い話』(柴田元幸訳、新潮社) 【飛びきりの異色短篇】
フランソワ・ラブレー『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』(渡辺一夫訳、岩波文庫) 【破壊的ユーモア】
スタニスワフ・レム『宇宙創世記ロボットの旅』(吉上昭三・村手義治訳、ハヤカワ文庫SF) 【破壊的ユーモア】
レーモン・クノー『文体練習』(朝比奈弘治訳、朝日新聞社) 【破壊的ユーモア】
ジョーゼフ・ヘラー『キャッチ=22』(飛田茂雄訳、ハヤカワ文庫NV) 【諧謔・風刺】
フラン・オブライエン『第三の警官』(大沢正佳訳、筑摩書房) 【諧謔・風刺】
エイモス・チュツオーラ『やし酒飲み』(土屋哲訳、晶文社) 【根源的な語り】
ラファエル・サンチェス・フェルロシオ『アルファンウイ』(渡辺マキ訳、未知谷) 【根源的な語り】
テッフィ『魔女物語』(田辺佐保子訳、群像社) 【土俗の想像力】
オラシオ・キログ『愛と狂気と死の物語』(野々山真輝帆編、彩流社) 【土俗の想像力】
G・K・チェスタトン『木曜の男』(吉田健一訳、創元推理文庫) 【秘密結社】

トマス・ピンチョン『競売ナンバー 49 の叫び』（志村正雄訳、筑摩書房）【秘密結社】
シャーリー・ジャクソン『野蛮人との生活』（深町眞理子訳、ハヤカワ文庫N V）【アンファン・テリブル】
レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ『南半球の発見』（植田祐次訳、創土社）【ユートピアの発見】
ルネ・ドーマル『類推の山』（巖谷國士訳、河出文庫）【見知らぬ世界への旅】

■柳下毅一郎（翻訳家）

G・K・チェスタトン『新ナポレオン奇譚』（高橋康也訳、ちくま文庫）
フラン・オブライエン『ドーキー古文書』（大澤正佳訳、集英社ギャラリー《世界の文学》）
イーヴリン・ウォー『囁きの霊園』（吉田誠一訳、早川書房《ブラック・ユーモア選集》）
フラナリー・オコナー『善人はなかなかいない』（横山貞子訳、筑摩書房）
フランソワ・ラブレー『ガルガンチュワ物語』（渡辺一夫訳、岩波文庫）
ヤコブス・デ・ウォラギネ『黄金伝説』（前田敬作・今村孝訳、平凡社ライブラリー）

■加藤逸人（本好き）

[Strange Places]

Arrival by Shaun Tan

HAV by Jan Morris

Sinai Tapestry by Edward Whittemore

Phosphor in Dreamland by Rikki Ducornet

Ghostwritten by David Mitchell

[Strange People]

The People of Paper by Salvador Plascencia

As She Climbed Across the Table by Jonathan Lethem

Someone Comes to Town, Someone Leaves Town by Cory Doctorow

Pfitz by Andrew Crumey

Blackwater Days by Terry Dowling

The Exploits of Engelbrecht by Maurice Richardson

■かたり（野生の本読み）

Psychological Methods To Sell Should Be Destroyed by Robert Freeman Wexler 【collection】[パンの
声を聞けるようになった男][向かいのビルの熱帯雨林に魅入られた男]

St. Lucy's Home for Girls Raised by Wolves by Karen Russell 【collection】[狼に育てられた少女のための
更正施設][ワニと格闘するテーマパーク]

Scorch Atlas by Blake Butler 【collection】[繊維質を食べて腹の中でガウンをつむぐ母親][死んだはずの赤ん坊
が屋根裏に]

Instruction Manual for Swallowing by Adam Marek [collection][しゃべるムカデ][37つ子多重妊娠中][たまごっちに奇病大流行]

Other City by Michal Ajvaz [寢室世界の逃避行][室内での戦争]

ステファノ・ベンニ『聖女チェレステ団の悪童』(中嶋浩郎訳、集英社) cf."Terra!" [路上スーパーサッカー][法螺のスケール]

キアラン・カーソン『シャムロック・ティー』(榎本伸明訳、東京創元社《海外文学セレクション》)
[終着点不明][別世界]

カレン・テイ・ヤマシタ『熱帯雨林の彼方へ』(風間賢二訳、白水社《ライターズX》)[羽治療法][三本腕と三乳房]

チャイナ・ミエヴィル『アンランダン』(内田昌之訳、河出書房新社)

ロアルド・ダール『オ・ヤサシ巨人BFG』(中村妙子訳、評論社《ロアルド・ダールコレクション》)
[泡が沈む炭酸][ニンゲンマメ]

■魚 (ラファティファン)

フィリップ・ホセ・ファーマー『気まぐれな仮面』(宇佐川晶子訳、ハヤカワ文庫SF) [奇想SF]

イアン・マクドナルド『火星夜想曲』(古沢嘉通訳、ハヤカワ文庫SF) [奇想SF]

レイナルド・アレナス『めくるめく世界』(鼓直・杉山晃訳、国書刊行会《文学の冒険》) [奇妙な旅]

ディエゴ・マラーニ『通訳』(橋本勝雄訳、東京創元社《海外文学セレクション》) [奇妙な旅]

パトリック・グランヴィル『火炎樹』(篠田知和訳、国書刊行会《文学の冒険》) [奇妙な旅]

K・W・ジーター『ドクター・アダー』(ハヤカワ文庫SF) [奇妙な旅]

チャック・パラニューク『ララバイ』(池田真紀子訳、早川書房) [奇妙な旅]

レオノーラ・キャリントン『耳ラッパ 幻の聖杯物語』(野中雅代訳、工作舎) [狂騒の黙示録]

レーモン・クノー『聖グラングラン祭』(渡辺一民訳、中央公論社《世界の文学》) [変な町の儀式]

バリー・ハナ『地獄のコウモリ軍団』(森田義信訳、新潮クレスト・ブックス) [奇想の南部]

A Dozen Tough Jobs by Howard Waldrop [奇想の南部]

アンジェラ・カーター『夜ごとのサーカス』(加藤光也訳、国書刊行会《文学の冒険》) [物語り]

エリック・マコーマック『パラダイス・モーテル』(増田まもる訳、東京創元社《海外文学セレクション》) [グロテスク][物語り]

ロード・ダンセイニ『世界の涯の物語』(中野善夫ほか訳、河出文庫) [法螺話]

ミハイル・ブルガーコフ『巨匠とマルガリータ』(水野忠夫訳、河出書房新社《世界文学全集》) [諸
譚と皮肉]

井村恭一『ベイスボイル・ブック』(新潮社) [熱帯の不思議]

佐藤哲也『熱帯』(文藝春秋) [熱帯の不思議]

別役実『魚づくし 続々真説・動物学大系』(平凡社) [奇想めいた冗談]

ウディ・アレン『羽根むしられて』(伊藤典夫ほか訳、河出文庫) [奇想めいた冗談]

ピエール・チュイリエ『反・科学史』(小出昭一郎、新評論) [オカルトと科学]